科学的な見地から見る趣味を仕事にする事の危険性

趣味を仕事にすると言うのは、悪魔に心を売る事と形容しても良いかもしれません。

心理学に置ける、内発的動機と外発的動機。内発的動機とは純粋に自分がそうしたいから行動すると言う意味で、外発的動機とは外部の何かのために行動すると言う意味です。

例えば、好奇心の赴くままに本を読む事が内発的動機なら、仕事で活躍してお金を得るために仕方なく本を読むのは外発的動機です。

さて本題、趣味と言うのは、その趣味に心が惹かれて始めて続ける事が多いのではないでしょうか？そんな内発的動機に例えば、お金のような報酬と言う外発的動機を加えると、趣味が仕事に変わってしまう可能性があります。「趣味を仕事に出来て良かった。だって、趣味を仕事に出来たなら、それはもはや仕事じゃなくて趣味なんだから！毎日が楽しいでしょ！！」

やりがいや楽しさのために趣味を行っていた人が、お金のため、何かしらの報酬のために趣味だった事を行う、もはやそれは趣味ではなくて仕事になった…うーん、哲学的なディープさを感じますね。

塾講師をしていた時に、とある生徒の一人がYouTubeでゲーム動画を挙げていたようで、ただ収益化はしていなかったので「何で収益化しないの？」と聞いた所「ゲーム動画アップロードは趣味として楽しくやってるから、収益化したら、今みたいに楽しめなくなる」と言っていて、当時の私は「何言ってんだコイツ」と思っていましたが、考えが浅く、心理学と人間を理解していなかった馬鹿は私でしたね。

まぁ、別に趣味が仕事になればなればで利点はあるでしょうし、必ずしも趣味が仕事になった事で心を失うわけではないでしょうが、心理学的な傾向、可能性ではあるので、考えてみる価値はあるのではないでしょうか？